

## 1. 基本構想策定に向けた提言（案）

検討委員会での議論及び市民ワークショップ等での結果を踏まえ、基本構想策定にあたり、以下のとおり市に対する提言を示します。

### （１） 拠点が目指すにぎわいの姿について

#### 〈拠点整備の位置づけと当該拠点の役割の明確化に期待〉

- 第三のにぎわい創出拠点整備(以下「当該拠点」と称する)が目指す「にぎわい」とは、「様々な交流による“にぎわい”を生み出す拠点となること」を基本とし、当該拠点での交流の中から経済的な活動が生まれ広がることを通じて、周辺地域への商業・経済活動が誘発されることに期待したい。
- 中心市街地の 3 つの拠点での機能分担を明確にし、連携を通じて、中心市街地全体が歩いて楽しめるまちづくり(ウォーカブルなまちづくり)が展開されることに期待したい。

#### 〈整備後の活用・市民の関わりこそが重要と捉える〉

- 本書に示すにぎわいづくりのアイディアの多くは、施設完成後に多くの市民が訪れる拠点となることを想起したものである。拠点施設の完成を目標とするのではなく、完成後、様々な方々が施設を訪れ、思い思いの活動をする場所として利用されることが大切である。
- 多文化共生も含めて人と人とが実際に交流すること、交流を通じて新たな楽しみが享受され、伊勢崎での豊かなライフスタイルが実現できること等、整備後にも市民が何等かの係りを持って拠点の魅力を高め続けられることが大切である。現在の若者・学生たちが家庭をもって、3 世代で訪れる姿もイメージした拠点づくりを構想されることに期待したい。

#### 〈来訪を期待するターゲットのニーズを想起する〉

- にぎわい創出拠点の整備においては、機能・施設ありきではなく、来訪が想定される様々なタイプの人々のニーズ(需要)とウォンツ(欲求)に沿って活動をイメージして、そのために必要なサービス・施設の導入を検討すること（施設ありきではなく活動ありきの思考）に注力いただきたい。

#### 〈拠点完結ではなく拠点からの“にじみ出し”によって回遊を誘発する〉

- 当該拠点で想起できる活動ができる機能・サービスのすべてを当該拠点に詰め込むのではなく、駅前や本町通り等、周辺へと“にじみ出す”ことも大切。それにより中心市街地での回遊が生まれてくるものとなる。

## (2) 拠点整備の方向性について

### 《拠点全体の方向性について》

〈来訪者のライフスタイルに応じて拠点を“シェアする”という考えをもつ〉

- 来訪が期待されるターゲット層により、来訪したくなる時間帯や曜日等が異なる。同じ空間・施設(諸室)においても、曜日や時間帯を組み合わせることで稼働率は向上する。
- にぎわい創出拠点を一週間・一日の中で空間を“シェアする”という考えを持つことで、空間や諸室が多層的に稼働し、にぎわいが生み出されることにつながるものとなる。
- 高齢者や障害のある人にも使いやすく参加しやすい拠点整備に期待したい。

### 《機能ごとの方向性について》

#### ① 図書館機能（新伊勢崎市図書館）

- 新図書館は複合施設の中核であるとともに、市内の他の図書館との「役割分担」を明確にし、「この図書館でなければならない」という「独自の価値」を構築すべきである。
- 図書館は「本を通して生活や考え方の質を向上させることができる宝庫」である。従来型の標準的な分類による図書の排架に加え、混排によるテーマ別の排架など、利用者視点で分かりやすい排架を行うことで、様々な情報・資料と出会う機会をつくることが大切である。
- 図書館機能は、その豊富な情報・資料や図書館職員の専門性を生かし、拠点内の織物産業伝承機能やインキュベーション機能などの他の機能と有機的に連携すべきである。この連携により、各機能の効果的な運営を情報面から支援し、拠点全体の価値を高めるとともに、特色ある図書館づくりにも繋がることに期待したい。
- 伊勢崎市保健センターとの役割分担・連携を図りつつ、子どもの居場所（サードプレイス）や多様な学びの場所、相談できる場、ヤングアダルトコーナーの充実など、若い世代のニーズに応えるための機能の導入が大切である。
- 市内に暮らす外国人が多い伊勢崎の特色を生かし、様々な言語や国・地域の文化に触れられるなど、多文化交流・多文化共生の視点からの学びや交流の機会を充実することに期待したい。
- これからできる新しい図書館として、従来型の考え方により蔵書数に基づき床面積を確保するだけでなく、椅子やソファを配置するなど、ゆとりのある開架スペースや滞在空間の確保を考慮し、図書館機能として必要な面積を検討することに期待したい。
- 魅力的な図書館は、運営に携わる人や図書館で活動する人の創意工夫や努力の積み重ねによって実現するものである。従来型の図書館にとらわれない柔軟な運営面の工夫（開館日・開館時間、運営体制など）を含め、新しいアイデアを取り入れていくことに期待したい。
- “静かな図書館”ではなく、子どもがワクワクするようなスペース、みんなとおしゃべりでき、赤ちゃんが泣いても大丈夫なオープンなスペースと、ひとりで静かにゆっくり

過ごす空間を併せ持つスペースづくりへの工夫に期待したい。

## ② 織物産業伝承機能

- 伊勢崎には「織物・銘仙に深く結びつく歴史、文化、先人たち」が存在した。織物産業の伝承をより広い視点で捉え、伊勢崎を支えてきた他の産業と織物産業との繋がりにも光を当てることで、市民がそれらを知る機会が得られることに期待したい。
- 織物産業の伝承を通じて、織物文化を生かした新たな事業や取組みが展開されるきっかけとなることにも期待したい。
- いせさき明治館との役割分担と連携を図り、相乗効果を生み出すことが重要である。
- デジタルを活用して試着が体験できる着せ替え電子パネルや語り部などによるPRによって興味・関心のない人に対して伊勢崎織物の価値をアピールしていくことも大切である。

## ③ インキュベーション機能（創業支援）

- 当該拠点におけるインキュベーション機能は、にぎわい創出の延長線上にある「なりわい」づくりと捉え、中心市街地における創業支援のハブとして、中心的な役割を担うことに期待したい。
- コミュニティビジネスやソーシャルビジネスを中心に、まずは「小さなチャレンジ」から始め、将来的な「まちなか創業・起業」に繋げていくことが重要である。そのため、当該拠点においては、創業・起業に関する相談窓口やコワーキングスペース、チャレンジショップのように、本格的な事業展開の前に相談したり「試せる」場が設けられることに期待したい。また、当該拠点では、チャレンジする人がいつでも創業・起業を実現した人の経験、知見、アイデアといったアドバイスを受けられるなど、応援・サポートされる仕掛けや体制づくりが充実されることに期待したい。
- インキュベーション機能の導入に当たっては、場の整備（ハード面）だけでなく、専門的なコーディネーターの配置といった運営面（ソフト面）の工夫が不可欠である。創業希望者・起業家同士のマッチングや発表会、プレゼン大会、起業家コミュニティの醸成等、創業支援も視野に入れた積極的な取組みが展開されるべきである。さらに、創業だけでなくあらゆる市内事業者の普段の操業に対する支援を含めたバックアップの仕組みづくりや拠点づくりについて、商工団体等の支援機関などとの具体的な検討がなされることに期待したい。

## ④ 広場機能、交通拠点機能

〈中心市街地の回遊につながる駐車場の適正配置、公共交通機関を充実させる〉

- 自家用車依存の高い地方都市において駐車場の確保は大切な集客要因である。にぎわい創出拠点に多くの来訪者を誘客し、滞在時間が長くなれば、駐車場の回転率は低下し、駐車場の空間占有率は高くなることが予想され、広場面積が狭くなることが予想され

る。

- 駐車場から“にぎわい”が生まれることは少ない。そのため広場空間を確保すべく配慮されるとともに、近接地の広場との一体的な活用が可能となるような配慮に期待したい。
- 駐車場の運営についても、図書館来訪者用の駐車場としての限定的な利用だけでなく多様な利用を想定するとともに、料金徴収等についても研究を深めていただきたい。
- 当該拠点整備においては、中心市街地内における公共交通機関の充実や中心市街地全体での回遊を意識した駐車場の適正配置等にも考慮されることに期待したい。
- ピロティによる建物との一体性を持たせた広場空間や、外周部へのテラス席の設置など憩える空間を創出するとともに、飲食できるキッチンカーや販売ワゴンなどの乗り入れ可能なスペースと電源などの設備を確保し、多様なイベントが開催できる広場となることに期待したい。

## ⑤ 防災機能

〈安心感を生むためには災害の備えが必須である〉

- “安心感のある拠点”となることを期待する背景には、安全・安心な拠点を形成することにある。そのためには災害への備えも必要である。酷暑への対応も、災害級の酷暑とすれば、災害への備えの一つといえる。
- 今後の公共施設の整備においては、緊急時の来訪者への安全確保は必須であり、最低限の防災機能は備えておくことが求められる。

## ⑥ その他の機能（情報発信、利用促進）

- 中心市街地全体のにぎわい創出に向けて3つの核がそれぞれ毎に躍動するとともに、有機的に連携することで周辺へとにじみ出していることを“見える化”していくことが大切である。当該拠点においては、完成までのプロセスの各段階からの情報発信によって、にぎわいづくりへの関心を喚起する情報が発信され続けることに期待したい。
- 市民が作品を発表できるギャラリースペースなど、文化的な活動の発表の場となることにも期待したい。

# （3）事業展開や運営の方向性について

## ① にぎわいを生むための事業展開や運営（機能間の連携・掛け算）

〈各機能が“掛け算の思考”により生じる魅力的な活動・サービスが展開される〉

- 図書館、伝承機能、インキュベーション機能のそれぞれにおいて魅力的な活動・サービスが実現することはもちろんのこと、各機能が掛け合わさることによって生じる活動・サービスにも期待したい。例えば、図書館にインキュベーションや起業・創業・経営・組織論等に関する書籍・情報や、織物・地元企業に関する書籍、情報コーナーの設置、インキ

ュベーションで生まれたソーシャルビジネスの試験的な場の創出等が想定される。

- 来訪が期待されるターゲット層により、来訪したくなる時間帯や曜日等が異なる。学生の放課後や仕事終わりにも利用することができるような開館時間とするとともに、中心市街地のにぎわいの観点からも休館日の見直しや祝日における開館について検討されることに期待したい。

## ② 実効性を高める取組み（市民協働による運営）

〈各機能の担当部局間の連携強化に期待する〉

- 複合機能を構成する施設について、市役所内では教育委員会(図書館)、文化財、商工、中心市街地、都市計画、企画等、様々な部署で実現に向けて検討されていると思われる。各部署の垣根を下げて、部署間の連携を強めて、利用者目線での施設づくりに期待したい。

〈市民の声（期待）が継続して届く仕組みづくりに期待する〉

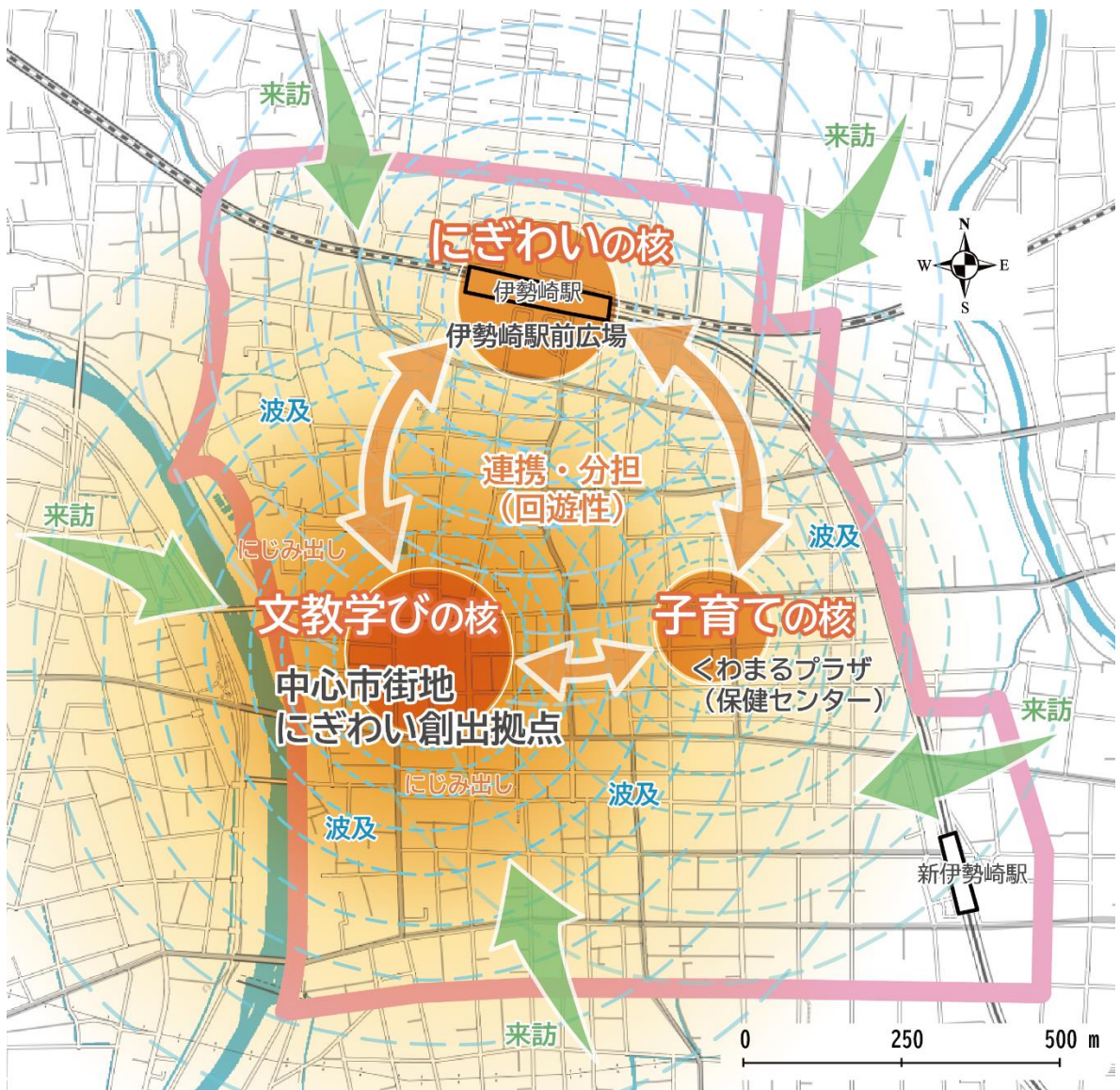
- 検討委員会での議論、高校生グループインタビュー及び市民ワークショップ等の取組みを通じて、利用者の視線で様々なアイデアが提案された。これらの意見に傾聴され、アイデアの一つ一つの実現に尽力いただきたい。なにより大切なことは、構想で終わらず、実現・実行することである。実現までの様々な機会に、市民の声(期待)が届くような仕組みを継続的に設けられたい。

## （４） 現伊勢崎市図書館の跡地利用について

- 現伊勢崎市図書館移転後の跡地利用は、本拠点の機能とも連携し、「文化的な香り」のする中心市街地の形成に資するよう検討されることに期待したい。
- 跡地利用として、本拠点からの「にじみ出し」や「回遊の仕掛けづくり」に繋がる要素を導入することで、中心市街地全体でのにぎわい創出に寄与することに期待したい。

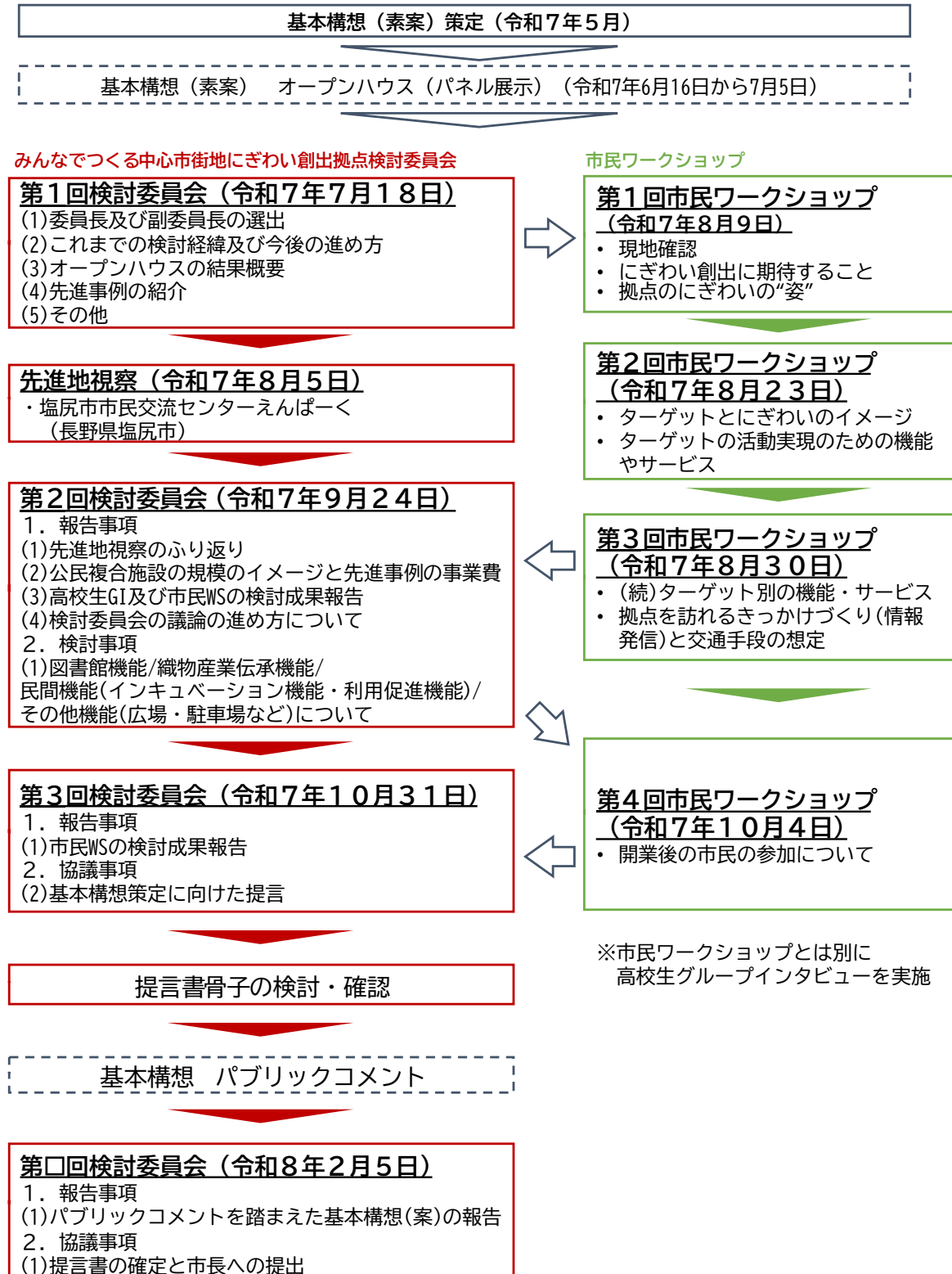
## （５） その他（基本構想策定後の委員会の関わりについて）

## ■ にぎわい創出のイメージ図



## << 検討経緯 >>

本提言書の検討経緯は以下のとおりです。



※市民ワークショップとは別に  
高校生グループインタビューを実施